

古市と能



②-6 本郷の旧古市邸（写真集『瀬川邸の四季』所収）

古市は1881（明治14）年に鳩山和夫等留学組5名とともに梅若実の門に入った。時とともに他の者たちの足が遠のいていくのに比し、古市は公務が多忙になればなるほど、「能」に入れ込んでいくように見える。

②-7 明治20年前半の能稽古表（『梅若実日記第3巻』から抜粋）

1	22	土	拙宅愛宕会素謡発会
1	25	火	根岸前田候二追善能。海人 古市公威／勇次郎
2	1	火	夕方五時過より古市公威方参ル。
2	4	金	古市方へ六郎参ル。木下出席。
2	8	火	拙者八木下広治へ参り古市出席。
2	13	日	愛宕会。
2	15	火	古市公威へ六郎参ル。木下広治出席。
2	25	金	神歌ヲ伝授致シ引渡シニ付古市公威 木下広治兩人一礼請取。
3	2	水	深川吉永町川村伝衛ノ別荘へ参ル。古市公威
3	4	金	極夕より古市公威へ参ル。木下出席。
3	8	火	三時より六郎事木下広次へ遣ス。古市出席。
3	12	土	午後一時より竹内拙宅素謡。
3	17	木	夕古市へ拙者罷越ス。
3	26	土	午後一時より古市公威宅開ノ祝素謡ニ神歌ノ開古市諷。
3	29	火	三時半より古市公威へ六郎遣ス。
4	5	火	夫より山岡次郎宅へ稽古ニ参ル。古市出席。
4	7	木	小川勘介ノ別荘押上村四百六十八番ニテ素謡催
4	10	日	拙宅愛宕会。
4	12	火	四時より古市公威へ参ル。木下出席。
5	8	日	一 宅愛宕会定日。
5	10	火	木下広次 松井直吉 古市公威 石井順三目録神前へ披備。
5	17	火	上野雲進会ヲ見ニ参り五時より古市公威へ参ル。木下出席。
5	31	火	夕古市へ六郎参ル。
6	12	日	愛宕会。幹事古市公威
6	20	月	六郎事八午後八山王茶寮へ廻り古市公威ノ囃子ヲ勤ル。
6	21	火	古市公威へ六郎遣ス。
6	28	火	古市公威へ六郎遣ス。
7	5	火	六郎参り四時より木下広次へ廻ル。古市 山岡出席。
7	10	日	愛宕会。
7	11	月	古市公威より頼二付本所二葉町堤申方ニテ囃子有之
7	14	木	夕古市へ廻ル。
7	26	火	古市公威宅ニテ午後より素謡催。



②-8 二代目梅若実を子方に「雲雀山」のシテを演じた



②-9 京釜鐵道竣工式・慈善会（『古市公威』所収）

1905年、釜山と京城をつなぐ京釜鐵道が完成。その竣工式に日本から梅若實の斡旋により観世流の能楽師を呼び寄せ、能舞台を設けて祝能を催す。翌5月26日の慈善会では、当時大阪随一といわれた大西亮太郎に成り代わり、「山姥」を演じた。日本海海戦のわずか2日前のことであった。